

科目の種類	必修	科目名	現代文	学年	3	単位数	4
コース	スポーツコース						
教科書	教育出版「精選現代文」						
副教材	浜島書店「最新国語便覧」桐原書店「ベーシック国語必携」						
<p>科目のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評論・小説などを通して、理解力・読解力の向上を目指します。主に、日本の近・現代の歴史や文化・文明について述べられている作品を多く取り上げ、小論文の基礎知識として活用してもらうこともねらいとします。 ・ 漢字練習の反復により、語彙（知っている言葉の数）力・漢字力の向上を目指します。 ・ 模試の解説などを通して、高校卒業相当以上の学力をつけることを目指します。 							
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のベースは教科書教材の読解になります。ただしそこだけにとどまらず、必要に応じて問題演習を行っていきます。 ・ 漢字は「漢字検定2級」のテキストを用いて勉強し、小テストを実施します。 「漢字検定」の受験は強制ではありませんが、できる限り多くの生徒が資格取得を目指して勉強することを期待しています。 ・ 実力テストや模擬試験を実施した際には、直後の授業で解説を行います。 							
<p>より良く学習を進めるためのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が話すことを聞いてノートを取っているだけでは、なかなか学力は伸びません。授業に対して受け身の姿勢ではなく、自ら調べ、自ら考える習慣をつけましょう。 ・ 新聞に目を通す習慣をつけ、社会の動きに敏感になりましょう。小論文の訓練にもつながります。 ・ 年間十冊以上本を読むようにしましょう。読書は理解力・読解力の向上に必要不可欠です。 							
<p>評価方法</p> <p>テストについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験の得点が中心になります。 							

平常点について

・出席状況、授業態度、漢字テスト、小テスト、授業ノート、課題提出などを加味して、総合的に評価します。

	学習単元	単元の内容とねらい
前期	随筆 (p.104) 「同情トイフコト」 詩 「樹下の二人」(p.84) ベーシック国語必携	優れた随筆に触れることで、随筆の特質的な表現方法を理解し、読解力を養います。 ・具体的な日常から、いかに普遍的な思考を引き出しているかを、論理的にたどりながら読み取っていきます。 ・「同情」と想像力の関係について考察します。 日本の近・現代が生んだ優れた詩に接し、その特質・魅力について考えます。 ・創り上げられた言説空間を具体的にイメージし、感じ取ることを通して、詩的表現に対する鑑賞能力を高めます。 教養として必要な国語の知識を学習します。
	第 1 回	定期 考 査
	小説 (p.260) 「舞姫」 ベーシック国語必携	本作品を通して、小説の読み方・味わい方についてまとめます。 ・近代文学がその出発当初持っていた擬古文に接し、その特質・魅力について考えます。 ・自我の目覚めや、外圧に抗しきれずに心ならずも自己の本心を偽ったり曲げたりして生きていかざるを得ないといった問題について、現代の我々の問題として捉え、考察を深めます。 ・当時の作者・作品の背景について調べ、明治の時代と人間について、認識を深めます。 ・本作品の文学史的な意義と近代日本文学の流れを確認します。 この後、必要に応じて演習問題(評論文中心)を解いていきます
	第 2 回	定期 考 査
後期	評論 (p.192) 「世界地図のイデオロギー」 ベーシック国語必携	論理的な文章に触れることで、論理的思考力を身につけていきます。 ・地図によって形づくられているとされる固定観念等について考えていきます。 ・文章の段落構成を意識しながら、「国際化」「文化」とは何か、ということについての理解を深めます。 教養として必要な国語の知識を学習します。
	第 3 回	定期 考 査

<p>小説 (p.151) 「火垂るの墓」</p> <p>ベーシック国語必携</p>	<p>本作品を通して、小説の読解方法を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説の三要素を確認しながら、場面の転換・登場人物の心情把握などを正確に取り扱います。 ・作品全体の構成を確認し、その効果を考えます。 ・文章表現として優れている箇所を確認し、味わいます。 ・題名から、本作品の主題を考えます。 ・本作品の社会的な背景を知り、主人公の生活について理解を深めると同時に、この作品から読みとることができるものは何かを考えます。 <p>教養として必要な国語の知識を学習します</p>
<p>第 4 回</p>	<p>定期考査</p>
<p>学 年</p>	<p>末 考 査</p>